「戦争を体験した人々」

喜名小学校　五年二組　喜納　慶乃

私のおじいちゃんは、沖縄で戦争が始まった時、「カラガーラ」という山おくにお母さんとお兄ちゃんと一緒に住んでいて、そのころおじいちゃんは七才だったそうです。

戦争中は、「ひなんごう」という所にたくさんの人が集まっていたそうです。

おしいちゃん達は昼は「ひなんごう」にかくれて、夜は、家にもどって、ご飯を作って食べて、食べた後、また「ひなんごう」にかくれにもどったそうです。そういう生活をくり返している時、ある日の夜、いつものように家にもどってくると、家の中から子供の大きな泣き声が聞こえてきたので新せきの人達かな？と思って家の中に入ると、全く知らない母親と男の子がいて、その時、男の子はねているお母さんのそばで、大きな声で泣いていたそうです。そしてその時母親はもう死

んでいたそうです。でも男の子はお母さんが死んでいるのが分からないのか、お母さんがたくさん血を流していたので泣きながらたんすの中から、おじいちゃん達の洋服をたくさん取り出してその洋服でお母さんの血を止めようとしていたらしく、母親の上には、たくさんの洋服が、つんであったそうです。でも、この時おじいちゃん達は、このままだと死んでしまった母親が家の中でくさってしまうので、おじいちゃん達は、なはから来た人達に手伝ってもらって、畑に穴をほって、その母親をうめたそうです。その後、男の子は、一緒にご飯を食べた後に、ひなんごうにかくれに行ったそうです。その日からなん日かして、おじいちゃん達のいるひなんごうの近くに、ばくだんが落ちてきて、ばくはつしてそのばくはつでたくさんの人の耳が聞こえなくなっていたそうです。

おじいちゃん達は、ブタと牛を一頭ずつかっていたけど、ブタは日本軍の人に見つかっ

て食べられたそうです。牛は日本軍の人にみつかるとまた食べられてしまうと思い新せきの人と山の中でつぶしてみんなで分けて食料にしたそうです。

そしてある日の夜、いつもは一緒に家にご飯を食べに帰るのにその時はおじいちゃんのお母さんとお兄ちゃんが先に家にご飯を作りにもどり、おじいちゃんは後からもどると、お母さんとお兄ちゃんはアメリカ兵に見つかり、じゅうでうち殺されていたそうです。その時おじいちゃんは、アメリカ兵に見つからなかったそうです。その後新せきの人と、ひなんごうの中で生活を続けていると、終戦をむかえたそうです。終戦後は、アメリカ兵につかまり「ほりょ」となって北部のはねじの軍のしせつに送られて、その後しばらくして「かいほう」されたそうです。

私のおじいちゃんのお母さんとお兄ちゃんは、戦争中アメリカ兵に殺されたので、今は平和のいしじに名前がきざまれて残って

いるそうです。おじいちゃんのお父さんは戦争が始まる前に病気でなくなってしまったので、平和のいしじには、名前は残っていないそうです。

私はおじいちゃんの話を聞いた時におじいちゃんは戦争の時にとってもくるしかったんだな。と思いました。私は戦争はもう二度とおきてほしくないと思いました。

だけど、まだ世界には国の中の内戦している所や、国と国が戦争している所があると聞きました。なぜ戦争がなくならないのだろうどうすればなくなるのだろう？私の考えは、国と国の人々が、みんなで楽しめるような事をすれば、戦争はなくなると私は思いました。

そして、六月二十三日はいれいの日です。戦争でなくなった人達のためにおいのりをしてあげたいと思います。